

特集

本の

マナーアップ
キャンペーン企画

～あなたには本の声が聞こえますか？～

SOS

近年、クレーマーと呼ばれる人達のこと話題となったり、公共施設における利用マナーの乱れが問題となっています。

図書館を利用される方の中にも、周りのことをあまり気にしない振舞いをされる方が少なからずいらっしゃいます。そこで、岩手県立図書館では昨年、利用者の皆さんに図書館の利用方法について少しでも関心を持っていただこうと、マナーアップに関するキャンペーンを行いました。

取り組み内容は、大きく分けて二つ。「資料の扱い方」について考えてもらう機会となるよう、資料の汚損や破損の様子と共に修理の様子を紹介したこと。もう一つは「図書館の利用方法」について、図書館スタッフが考えたマナーアップに関する川柳を館内に掲示したことです。

今回の特集では、「本のSOS」と銘打った「資料の扱い方」に関する取り組みについて、昨年使用したキャプションやパネルなどをご紹介します。紹介するパネル等は、当館ホームページ「市町村立図書館等ログイン」の中の「共通資料」にも掲載する予定ですので、同様の取り組みをされる時などにご利用ください。

破損・汚損資料の展

汚損や破損されてしまった資料の展示コーナーでは、「切り取り」「水ぬれ」「汚れ」「書き込み」などの代表的な破損・汚損例を取り上げ、実際に破損資料をご覧いただけるように展示をしました。

併せて、事例ごとの特徴や注意点を紹介したキャプションを作成し、「濡れてしまう」「汚れてしまう」「傷んでしまう」ことについて、理解を深められるようにしました。



「水ぬれ」の事例

【水ぬれ】

水に濡れてしまった本は、適切な処置を施さなければゴワゴワになってしまい、元に戻すことができません。また、その後の保管状況によってはカビが発生してしまうこともあります。どんなに良い本であっても、読んでもらえなければ意味がありません。このような状態の本を読みたいと思う人がいるでしょうか？

水にぬれると、
本はこんなにカビが生えちゃうんだ!!
気をつけなくちゃ。



「書き込み」の事例

【書き込み】

ボールペンや蛍光ペンで書き込みをされると、消すことができません。たとえ鉛筆での書き込みであっても、消しゴムをかけることで印字が薄くなってしまったり、ページをしわくちゃにしてしまう恐れがあります。メモを取るなりしおりを挟むなどして、本への書き込みは絶対にしないでください。

色を塗りたくっちゃったんだよね。
でも、図書館の本では、
がまん。がまん。



この他にも、「汚れ」「切り取り」についても紹介しました。
やっぱり図書館の資料は大切に
しなくちゃね。そして、ぼくたち
図書館員も大切に扱わないとね。
次のページでは、修理の様子を
まとめたパネルを紹介します。



【汚れ】

飲み物や食べ物をこぼされた本です。どのような状況で読んでいたのか、墨汁や食用油の染みついたものもあります。読んでいて決して気持ちの良いものではないですし、本が傷む原因にもなります。館内が飲食禁止となっているのは、こうした事態を未然に防ぐためでもあります。ご注意ください。

【切り取り】

ページを切り取られるということは、その本が持つ情報の一部が永久に失われるということです。それが小説であったなら、あるいは画集や写真集であったなら…こんなことをされては、本は情報を伝えるという本来の役目を果せなくなります。図書館の本は、決して自分一人のものではないのです。





本の修理1 破損した図書は、「修復・作業室」というところに持ち込まれ、一冊一冊、これ以上の破損を防ぐために手当てをほどこされます。再び手にとってもらうために、また気持ち良く読んでもらうために、日々、修理をしてくださる人たちの作業風景です。



カバーがだいぶ傷んでいます。放っておくといずれ破けてしまいますので、早めに補修します。



もともとの雰囲気を変えないように、色の近い和紙を選び、傷んだ箇所に貼っていきます。



文字がある場合は、そこを避けながら補修します。



カバーの折り目も傷んでいるので、一緒に補強しておきます。

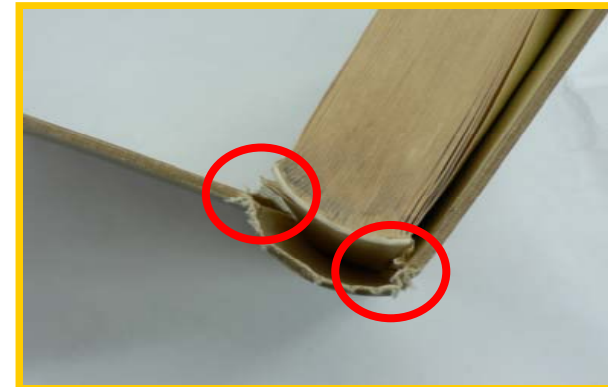


見えづらいですが、裏側にも白い和紙を貼り、補強しています。



最後に補修用のテープを貼り、できあがり。こうして再び書棚に戻され、次の利用者を待ちます。

本の修理2 傷んだ本は放っておくとどんどん壊れてしまうので、早め早めの修理が必要です。読んでいる時に破損や汚れに気が付いたら、また、もし汚したり破損したりしてしまった場合は、返却の際にスタッフまでお申し出ください。



表紙と中身をつなぐ紙（見返し紙）が裂け、表紙が外れそうになっています。



見返し紙と表紙をのり付けしますが、もともと背と中身が密着していない本なので、慎重に。



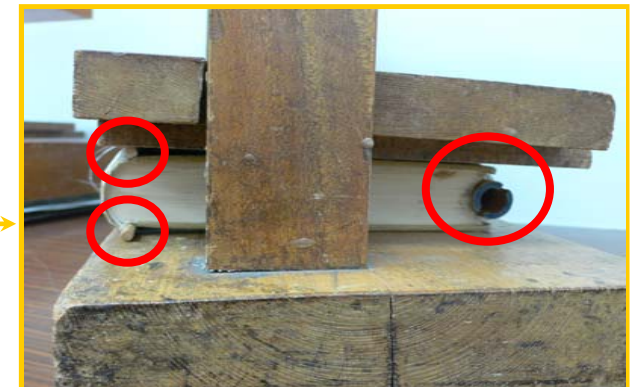
裂けた見返し紙を補修していきます。



丁寧に処理をしたら…



プレス機にかけて本の形を整え、のりが乾くの待ちます。



この時、背表紙にあわせて中身を押しさえ、表紙のみぞを活かすようにしないと、本の開きが悪くなります。